

Ⅶ 社会教育（生涯学習）

1 社会教育施策の重点

現代社会の急速な変化に対応するためには、自ら課題を見つけ考える力や、柔軟な思考力、身に付けた知識・技能を活用し課題を解決する力や、他者との関係を築く力に加え、豊かな人間性等を含む総合的な「知」が必要とされる。また、自立した個人やコミュニティ（地域社会）の形成及び持続可能な社会の構築への要請等を踏まえ、生涯学習振興の必要性が高まっている。

このため、総合的な生涯学習の推進を図り、多様な学習機会や情報の提供、学習環境の整備・充実及び社会教育活動の活性化に取り組んでいく。また、将来の三島を担っていく者として、豊かな感性と幅広い視野を持った青少年の健全育成を推進していくため、青少年活動の推進、青少年を育む地域づくり及び青少年活動の場の整備に取り組んでいく。

2 委員会・団体の構成

(1) 各委員会等の構成 令和4年4月1日現在

名称	構成人員	任期
社会教育委員	15	2
青少年問題協議会	29	2
青少年相談室運営懇話会	10	2
補導指導員	149	2
公民館運営審議会	10	2
箱根の里運営協議会	15	2
三島市民生涯学習センター運営委員会	10	2

(2) 三島市社会教育委員 任期：令和3年12月1日～令和5年11月30日(令和4年4月1日現在)

役職	氏名	選出区分	役職	氏名	選出区分
委員長	永倉 えり子	学識経験者	委員	靱山 好実	社会教育団体
副委員長	前田 磨	学識経験者	委員	大澤 秀子	社会教育団体
委員	足立 博道	学識経験者	委員	朝日 孝徳	学識経験者
委員	後藤 素行	家庭教育	委員	石井 芽久美	学識経験者
委員	本持 信慈	学識経験者	委員	齋藤 龍哉	学校教育関係者
委員	渡邊 靖乃	家庭教育	委員	飯塚 道代	社会教育団体
委員	高橋 徹司	家庭教育	委員	吉田 美和子	社会教育団体
委員	小藪 余志美	学識経験者			

3 令和3年度の重点事業

(1) 生涯学習・社会教育関係

- ア 生涯学習情報の充実
- イ 各種講座・イベントの充実
- ウ 社会教育関係団体などの育成・支援
- エ 地域連携活動の支援
- オ 市民生涯学習センターなど社会教育施設の機能の充実

(2) 青少年健全育成関係

- ア 「ジュニアリーダー研修」「高校生リーダー研修」等の実施を通じた青少年リーダーの育成
- イ 青少年健全育成会との連携による市民総ぐるみでの青少年の育成と非行化防止
- ウ 青少年相談室の充実と相談・補導事業の強化

- エ 児童センターでの講座やイベントなど、児童を対象とした事業の開催
- オ 学校、地域、家庭の連携体制の構築、協働の推進

(3) 女性団体支援関係

- ア 女性相互の情報交換、交流と社会参加の促進支援
- イ 女性団体の自立促進支援

4 生涯学習事業

(1) 生涯学習情報の提供

- ア インターネットによる学習情報、行事予定、行政情報、施設案内等の情報の提供
- イ 生涯学習情報宅配便（リリエムクラブ）
- ウ 生涯学習指導者登録・紹介（ハロー教授バンク）
- エ 生涯学習推進員活用事業

(2) 夏休み子どもイベントの開催

夏休み中の子どもたちに体験的な学習の機会を提供し、健全な心身の育成に努めることを目的に実施した。

- ア 開催日 令和3年8月7日（土）
- イ 受講者 市内在住の小学生 12人

(3) 三島いきいきカレッジの支援

多様な学習ニーズに応え、講師・スタッフ・受講生が共に協力し、自主的に運営する生涯学習講座として、講師による各種講座を実施した。

- ア 開催期間 令和3年6月～令和4年3月
- イ 内 容 講座数 22講座
受講生 395人

5 生涯学習推進事業

(1) 生涯学習功労者表彰

生涯学習の推進に貢献された方を生涯学習功労者として表彰した。

- ア 表彰日 令和4年2月5日（土）
- イ 受表彰者 個人5人

(2) 生涯学習まつりの開催

市民生涯学習センターを活動の場とする生涯学習課関連団体の学習成果発表と団体相互の交流を図ることを目的に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年度は代替事業として、団体紹介ムービーと作品等の展示のみ実施した。

6 家庭教育事業

(1) (前期) 幼児期からの家庭教育セミナー

幼児期における家庭教育の理解やしつけの基礎を学ぶことを目的に実施した。

- ア 開設期間 6月10日（木）～7月15日（木）
全3回（4.5時間）
- イ 受講者 市内在住で幼児・児童をもつ保護者12人

(2) (後期) 幼児期からの家庭教育セミナー

幼児期の子をもつ親の子育て、子育て、親育ちをサポートすることを目的に実施した。

- ア 開設期間 11月19日（金）～12月9日（木）
全3回（4.5時間）
- イ 受講者 市内在住で幼児・児童をもつ保護者12人

(3) 幼稚園家庭教育講座

家庭における幼児教育の重要性を認識することを目的に、市内公立及び私立幼稚園に通園する園児の保護者を対象に実施した。

	開催園数	開催回数	時間数	参加者数
公立園	2	2	2	32
私立園	1	1	2	31
計	3	3	4	63

(4) 小中学校家庭教育学級

義務教育期の家庭における教育機能の向上を図り、家族の役割・学校や地域とのかかわり等について考えることを目的に、市内小中学生の保護者を対象に実施した。

	開催校数	開催回数	時間数	参加者数
小学校	5	6	11	130
中学校	2	4	14.5	93
計	7	10	25.5	223

(5) スマイル子育て講座

「木こりのアート～親子で作る木のオブジェ～」

おうち時間を使って親子で制作を楽しんでもらうため、森からとってきた様々な木材・ボンド等の材料・講師の中村麻美先生手作りレシピを受講予定者に配布した。

ア 配布期間 3月10日(木)～19日(土)

イ 受講者 市内在住の小学1年生以上の子とその保護者の9組11人

(6) 家庭教育学級全体講座

コロナ禍における保護者の心構えや、子どもに向き合う姿勢を再確認してもらうことを目的に実施した。

ア 開催日 11月27日(土)

イ 受講者 市内在住で小中学校の子どもと保護者32人

7 成人教育事業

みしま教養セミナー

学習活動を通じて生きがいを持って社会に参加することを目的に、日本大学と順天堂大学から講師を招き、多彩な学習機会を提供している。

日時	講座内容	参加人数(人)
10月8日	新型コロナウイルス感染症対策(日本大学)	23
10月21日	コロナをめぐる差別や偏見を考える(順天堂大学)	14
10月28日	With コロナ時代!(順天堂大学)	12
	計	49

8 女性団体支援事業

市内で活動・学習している女性相互の交流を通して女性の意識向上を図るため、いきいき友の会などの女性団体の自主的な活動を支援するとともに、女性懇話会を開催し、団体間の交流や情報交換の機会を提供している。

また、婦人・女性学級を開設し、各種学習会を通して資質向上を図った。

婦人・女性学級(2学級)

名称	開設場所・学習テーマ	時間数	学級生数
南婦人学級	開設場所 南地区コミュニティ防災センター	33.5	70
	学習テーマ 「明るく 楽しく 笑顔で！」		
中央女性学級	開設場所 三島市民生涯学習センターほか	34	172
	学習テーマ 「学びを広げ 心も身体も いきいきと」～今を楽しもう～		

9 青少年対策事業

青少年が「誇り」と「責任」と「自覚」をもって社会に役立つたくましい人間に成長できるよう、学校、関係団体、地域住民等の協力を得ながら青少年の健全育成を推進した。

(1) 青少年問題協議会

市議会、関係行政機関、学識経験者等で構成され、青少年健全育成に関する総合的施策について審議並びに連絡調整を図る青少年問題協議会を年2回開催している。

青少年問題協議会会長及び委員 任期 令和6年3月31日まで

【会長】 豊岡 武士（三島市長）

（令和4年4月1日現在）

【委員】

	氏名	役職		氏名	役職
1	川原 章寛	三島市議会議長	16	浅井 由美子	三島市交通安全母の会連合会 会長
2	内田 一弘	三島警察署署長	17	篠原 誠	三島市子ども会連合会会長
3	安藤 宏通	三島市教育委員	18	宇田 由紀子	三島市中央女性学級副学級長
4	永倉 えり子	三島市社会教育委員長	19	日置 麻美	放課後児童クラブ保護者会代表
5	鈴木 真	三島市校長会会長	20	尾崎 則子	いきいき友の会会長
6	鈴木 敏彦	県立三島北高等学校校長	21	森 章子	三島市地域活動連絡協議会 会長
7	持山 育央	県立三島南高等学校校長	22	上條 猛	ボーイスカウト三島地区協議 会地区委員長
8	石垣 智博	県立三島長陵高等学校校長	23	朝木 未夏	ガールスカウト三島地区連絡 協議会会長
9	渡邊 武一郎	日本大学三島高等学校・中学校 校長・事務取扱	24	服部 光弥	三島市青少年健全育成会監事
10	石井 芽久美	三島市自治会連合会副会長	25	足立 博道	三島市スポーツ少年団本部長
11	長谷川 光宏	三島地区保護司会会長	26	西島 玉枝	三島市教育長
12	宮川 紀代美	三島市民生委員児童委員 協議会会長	27	臼井 貢	三島市健康推進部長
13	加藤 智彦	三島市民生委員児童委員 協議会理事	28	水口 国康	三島市社会福祉部長
14	三浦 太	三島市PTA連絡協議会会長	29	鈴木 佳憲	三島市教育推進部長
15	吉田 稔子	三島市PTA連絡協議会 家庭教育委員長			

(2) 青少年相談室

青少年相談室では、日常業務として、相談員・指導員常時7人による児童・生徒の電話及び面接相談、問題をもつ青少年の継続指導、その他青少年の健全育成に必要な事業を行っている。令和2年度から、中郷公民館・北上公民館に分室を設置し、要望があれば相談を行っている。

また、補導活動として補導指導員の協力のもと市内繁華街を中心に街頭補導を実施している。

相談室の運営に関しては、教育・民生・警察等から選出された10人の委員により構成される運営懇話会において協議し、円滑で効果的な運営を図っている。

ア 三島市青少年相談室運営懇話会委員

任期 令和6年3月31日まで

（令和4年4月1日現在）

	氏名	役職
1	西島 玉枝	三島市教育長
2	杉橋 文代	三島市民生委員児童委員協議 会児童福祉部会長
3	西原 隆司	三島地区保護司会代表
4	前田 磨	三島市社会教育委員副委員長
5	吉田 稔子	三島市PTA連絡協議会 (家庭教育委員長)
6	長橋 浩幸	三島警察署生活安全課長
7	伊藤 剛	三島市校長会代表
8	鈴木 玲子	三島市スクールソーシャルワ ーカー 代表
9	渡邊 博文	三島警察署少年警察ボランテ ィア連絡会代表
10	鈴木 佳憲	三島市教育推進部長

イ 令和3年度 電話相談受付状況

104 ケース 延べ1,495 回

ウ 令和3年度 面接相談受付状況

129 ケース 延べ2,499 回

エ 令和3年度街頭補導活動累計

補導の種類別活動状況

	常時 補導	市街地 補導	地区 補導	計	前年度
実施回数	17	2	44	63	12
参加者数	81	25	220	326	78
注意指導数	1	0	1	2	9
(女子数)	0	0	0	0	0

オ 有害図書追放運動

青少年にとって有害な雑誌等の図書が、特に自動販売機から自由に入手できる環境は青少年の健全育成上好ましくないため、三島市においては昭和 57 年の青少年健全育成会発足以来、まず第一に環境浄化が取り上げられ、問題行動の原点となりうる自動販売機の撤去運動が活発に行われてきた。

その結果、平成 20 年 12 月末に 7 台あった自動販売機設置台数は 0 台となり、現在に至っている。

(3) 三島市青少年健全育成会

主な活動

ア 青少年健全育成セミナー

a 日 時 11 月 12 日(金)
午後 3 時から 5 時 15 分まで

b 出席者 小中高教育関係者、小中高
PTA、自治会関係者、
健全育成団体等 79 人

c 内 容
健全育成功労表彰 (11 個人 1 団体)
講演会
演題：「人を『つくり』『育て』『生かす』術とは。」
講師：内田 順三 氏
(元読売ジャイアンツ・打撃コーチ)

イ 静岡県青少年育成会議総会 (書面議決)

a 日 時 6 月 17 日(木)

ウ 子供・若者育成支援強調月間静岡県大会
in 下田市

a 日 時 10 月 30 日(土)
午後 1 時～午後 3 時 30 分

b 会 場 下田市民文化会館
大ホール

エ 啓発活動

- ・声掛け運動の実践
7 月 1 日(木)、9 月 21 日(火)、
12 月 15 日(水)
- ・未成年者喫煙防止啓発キャンペーン
(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7 月、11 月 中止)
- ・未成年者飲酒防止街頭キャンペーン
(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4 月 中止)
- ・のぼり旗の掲出等による「青少年の非行・被害防止強調月間 (7 月)、「子供・若者育成支援強調月間」(11 月)の啓発
- ・全市一斉あいさつ運動
7 月 1 日(木) 9 月 21 日(火)
12 月 15 日(水)

10 青少年教育事業

移り変わりの激しい現代社会の中にあって、青少年相互に研鑽と交流を深めるとともに青少年指導者の養成を図り、明るく住みよい郷土づくりの活動が積極的にできるよう努めた。

(1) 三島市少年の船

三島市内の中学生を対象に、航海体験や洋上研修、研修地での体験学習や交流を通し、たくましさと思いやりのある豊かな情操を養い、心身ともに健全な中学生の育成を図ることを目的に実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和 3 年度は研修を中止し、次年度に向けて検討委員会を実施した。

(2) 三島市少年少女発明クラブ

三島市少年少女発明クラブは、同実行委員会指導のもと、児童に科学技術に関する興味・関心を追及できる場を提供し、科学的で独創的な発想に基づく創作活動を通じて、発明くふうの楽しさと創作する喜びを体得させることにより、創造性豊かな人間形成を図ることを目的に実施した。

開催期間	講座数	対象者	参加者
R3.5～ R4.3	全15回	小学4～6年生	61人

(3) みしまっ子体験塾

三島の文化、環境、食などの資源を生かしたさまざまな体験活動を通して、郷土に親しみ、健やかな心身を育むとともに、学校や学年の異なる集団活動の中で、仲間づくりや継続して諸活動へ参加する意欲を高めさせることを目的に実施した。

ア 開催期間

令和3年6月～令和4年1月（全4回）
※全6回予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため回数減少

イ 会場

市民生涯学習センター、
山田川自然の里 ほか

ウ 参加者

市内在住の小学4年生～6年生 27人

(4) 学校週5日制対応事業（ジュニアプラザ）

中学生・高校生の校外における活動として休日にさまざまな体験ができる機会を提供することにより、多分野に興味関心を持つきっかけの場とする。また、体験を通して教養を身につけ、同年代の参加者同士の交流を深め、少年育成を図ることを目的として実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年度は中止。

(5) 中学生リーダー研修（ジュニアリーダー研修）

中学生を対象に、野外学習等3回の研修を

実施し、仲間との連帯意識を高め、自主性と実践性を培い、社会活動へ参加できるリーダーの育成を図った。

ア 開催期間

令和3年6月～令和3年12月（全3回）
※全5回予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため回数減少

イ 会場

市民生涯学習センターほか

ウ 参加者

市内在住又は在学の中学生 46人
（男23人、女23人）

エ 指導担当

ジュニアリーダー研修実行委員会

(6) 高校生リーダー研修（アドバンスドジュニアリーダー研修）

中学生リーダー研修を修了した高校生を対象に、ジュニアリーダー研修でのリーダー活動、ボランティア研修、自然体験活動等を実施し、自己の確立や資質の向上を高め、社会参加活動に自主的・意欲的に取り組むリーダーの育成を図った。

令和3年度参加12人（男9人、女3人）

(7) 令和3年度「三島市中学生の主張」大会

（三島市青少年健全育成会及び三島市校長会との共催事業）

ア 趣旨

中学生が自分の考えを広く訴えることにより社会の一員としての自覚を高める契機とするとともに、市民の青少年健全育成への理解と関心を深めてもらう。

イ 人数

発表者16人（市内中学校8校から各2人の代表・応募数1,109人）、来場者75人

ウ 内容

本人による意見の発表を行った。また、発表作品すべてを「わたしの主張2021」静岡県大会（静岡市で開催）の出場作品候補として推薦した。

(8) 成人式

市内の新成人者を招き、成人への仲間入りを祝して記念式典を実施した。また、式典後半では、成人式実行委員会による参加型のクイズ企画「未成年、卒業式 #三島ハタチしか勝たん」を実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、出身中学校区ごとに二部入替制で式典を実施した。また、式典当日に限り新成人は楽寿園を入園無料とした。

日時	会場	対象者数	出席者数
R4. 1. 9(日)	三島市民文化会館	1,012人 ^{※1} (R3. 11. 30現在)	822人 ^{※2}

※1 H13. 4. 2～H14. 4. 1 に生まれた者

※2 住民登録外参加者を含む

(9) 青少年団体の育成

青少年団体（ボーイスカウト三島地区、ガールスカウト三島地区連絡協議会、三島市青年団体連絡協議会）へ、活動の活性化を図るための支援を行った。

(10) 青年団体（和倶楽部）

陶芸を中心に、着付けや茶道など「和」の講座を開講し活動した。令和3年度会員 4人

11 児童センター事業

児童に健全な遊び場・安全な居場所を提供するため、市民生涯学習センター内に児童センターを設置し、遊戯室・軽運動室等で、児童の健康を増進し、情操を豊かにすることを目的に各種事業を実施した。

(1) きらきらタイム

ア 年間開催数 5回

イ 参加者 75組 153人

(2) 親子でるんるんリトミック

ア 年間開催数 4回

イ 参加者 47組 94人

(3) 児童センター例月事業

ア 年間開催数 4回

イ 参加者 176人

12 学校・家庭・地域連携協力推進事業

(1) 地域学校協働本部事業

学校を核とした地域づくりを目指すため、公立小中学校に地域学校協働本部を設置し、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して事業を行うための橋渡しをする組織である同実行委員会を中心に、地域住民が協働活動サポーターとして活動に取り組む体制づくりを推進している。

三島市では、平成21年度に錦田中学校での設置を皮切りに、平成26年度に5校、平成27年度に12校、また、平成28年度に残る3校にも設置され、市内の全公立小中学校（小学校14校、中学校7校）での地域学校協働本部設置及び学校支援活動が展開されている。

活動内容

授業の補助（学習作業の支援）、放課後の学習支援、授業の講師（職業講話）、校内の整備、環境整備（樹木の剪定、花壇の整備等）、学校行事への協力活動、登下校の見守り（スクールガード）、本の読み聞かせなど

※各校の状況に応じた活動をそれぞれが展開

この地域学校協働本部事業の枠組みの中で、大学生や地域住民等の人材を学習支援員として活用した放課後学習支援の取組として「しずおか寺子屋（みしま寺子屋）」を実施している。

[令和3年度の実施状況]

・対象校・学年・教科、実施回数

徳倉小学校(3年生・算数)10回

北上小学校(4～6年生・国語、算数等)8回

南中学校(3年生数学・英語)23回

- 中郷中学校(1～3年生・数学・英語等)18回
- 中郷西中学校(3年生・数学)、15回
- ・学習支援員 日本大学国際関係学部ほか
の大学生、地域住民ボランティア

(2) 家庭教育支援事業

すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、平成27年度から家庭教育支援員(通称「家庭教育アドバイザー」)を配置し、小中学校等において、保護者への学習機会の提供(「講座」…県教委作成家庭教育ワークシートを活用したグループトーク)や相談対応等の家庭教育支援活動を実施している。

[令和3年度の実施状況]

- ・家庭教育アドバイザー3人(元小中学校教員)、家庭教育サポーター5人
 - ※チームとなって活動
- ・実施場所(機会)…全公立小中学校、家庭教育学級、入学説明会、幼稚園等
- ・実施回数…講座6回(※中止6回)
相談4回(※中止4回)
親学講座2回(※中止5回)
 - ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止